



## 2022年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月1日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社三菱総合研究所  
 コード番号 3636 URL <https://www.mri.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藪田 健二  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部長 (氏名) 安達 恭子 TEL 03-6705-6001  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月2日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年9月期第3四半期の連結業績(2021年10月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第3四半期	91,673	—	9,335	—	10,430	—	7,819	—
2021年9月期第3四半期	80,402	13.9	6,641	12.6	7,364	△8.4	5,046	△29.9

(注) 包括利益 2022年9月期第3四半期 8,076百万円(—%) 2021年9月期第3四半期 5,183百万円(△36.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第3四半期	481.69	—
2021年9月期第3四半期	310.80	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年9月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。2022年9月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第3四半期	112,051	71,053	56.3
2021年9月期	99,704	63,836	56.4

(参考) 自己資本 2022年9月期第3四半期 63,078百万円 2021年9月期 56,279百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年9月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	55.00	—	60.00	115.00
2022年9月期	—	60.00	—	—	—
2022年9月期(予想)	—	—	—	65.00	125.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年9月期の連結業績予想(2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	117,000	13.6	9,200	34.2	10,400	37.4	7,500	49.7	461.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年9月期の連結業績予想は、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年9月期3Q	16,424,080株	2021年9月期	16,424,080株
② 期末自己株式数	2022年9月期3Q	173,507株	2021年9月期	212,426株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年9月期3Q	16,233,649株	2021年9月期3Q	16,238,747株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従って、予想に内在する不確定要素や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高及び利益は当該予想と異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11
3. 補足情報	12
受注及び販売の状況	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を適用しております。そのため、当第3四半期連結累計期間における経営成績に関する説明は、前第3四半期連結累計期間と比較しての増減額及び前年同期比（%）を記載せずに説明しております。

詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年10月1日～2022年6月30日）の世界経済は、物価高やウクライナ情勢が下振れ要因となり、成長ペースが鈍化しました。ロシアに対する欧米各国の経済制裁の結果、エネルギー価格は引き続き高水準で推移しています。また、輸出入の制約、現地での事業・生産の停止、物流遅延など世界経済への悪影響も顕在化しました。米国経済は、物価上昇率の約40年ぶりの高水準を受けたFRB（連邦準備制度理事会）による利上げ加速もあり、成長は減速しました。中国経済も、ゼロコロナ政策が引き続き維持されており、感染抑制のために一部地域で厳しい防疫措置が実施されたことから消費が下振れ、成長が減速しました。

わが国では、新型コロナウイルスの防疫と経済活動の両立への動きが進みました。その結果、わが国経済における消費は、エネルギー価格を中心とする物価高で下押しされた一方、経済活動の再開を受けて増加傾向を維持しています。輸出・生産は、中国のゼロコロナ政策に起因する対中輸出減少や部品・半導体の供給不足もあり、減少基調となりました。

このような社会情勢・事業環境を踏まえつつ、当社は経営理念「豊かで持続可能な未来の共創を使命として、世界と共に、あるべき未来を問い続け、社会課題を解決し、社会の変革を先駆ける」を掲げ、事業を展開しています。

当連結会計年度は「中期経営計画2023」（以下、「中計2023」）の中間年（2年目）にあたります。当社グループの基盤事業であるリサーチ・コンサルティング事業、金融ソリューション事業の価値提供力に磨きをかけるとともに、シンクタンクとしての政策提言機能の強化、成長領域であるデジタル・トランスフォーメーション（DX）事業、ストック型（知的資産を活用した汎用サービス提供）事業、海外事業などへの先行投資を進めています。また、人財、都市・モビリティ、エネルギー、ヘルスケア、情報通信、食農などの分野で、研究・提言から社会実装に至るバリューチェーン（価値創造プロセス：VCP）を一貫して手掛けるVCP経営を展開、新たな事業の柱や収益源の獲得に注力しています。

ロシアによるウクライナ侵攻や新型コロナウイルス感染拡大の長期化はわが国経済にさまざまな影響を及ぼしていますが、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績には大きな影響は見られず、中計2023に沿った順調な成果があがっています。

ポストコロナの「新常态」への流れは、当社グループにとっての事業機会でもあり、「新常态」を見据えた経営を基本方針の一つに据えています。このうちオフィス改革については、従業員間のコミュニケーションを重視した新たなオフィス仕様への変更を行うとともに、子会社2社の当社本社ビルへの移転・統合が第2四半期連結会計期間において完了したことで、経費抑制効果も表れ始めています。

成長事業の牽引役と位置付けたDX事業では、民間、公共、金融の3つの重点テーマを設定し、例えば民間向けには、DXコンサルティングとクラウド移行を組み合わせた支援や、ビッグデータ分析を採り入れたデジタルマーケティングなどに積極的に取り組み、化学、保険、電力など幅広い業種のお客様に対し、DX化の的確な推進やAIの活用、ビッグデータを活用した予測・予兆型経営等への実績を重ねています。

さらに、当社グループの経営理念に基づき、豊かで持続可能な未来社会の実現と当社グループの持続的成長の両立を目指して、4月にはサステナビリティに関する基本方針を策定・公開しました。また、TCFD(\*)が提言するフレームワークに基づく気候変動関連の情報開示を行いました。

(\*)TCFD：金融安定理事会により設置された気候関連財務情報開示タスクフォース

こうした結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は91,673百万円（前年同期は80,402百万円）、営業利益は9,335百万円（前年同期は6,641百万円）、経常利益は10,430百万円（前年同期は7,364百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7,819百万円（前年同期は5,046百万円）となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,981百万円増加、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益はそれぞれ952百万円増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は522百万円増加しております。当影響を除いた場合においても、増収増益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(シンクタンク・コンサルティングサービス)

当第3四半期連結累計期間は、官公庁分野のAIシミュレーションを含む大型案件や5G関連の実証案件、再生エネルギー関連の調査・実証案件、金融機関向けコンサルティング案件の伸長により、売上高(外部売上高)は40,848百万円(前年同期は33,735百万円)、経常利益は6,212百万円(前年同期は4,944百万円)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、当第3四半期連結累計期間の売上高は759百万円増加、経常利益は40百万円減少しております。当影響を除いた場合においても、増収増益となりました。

(ITサービス)

当第3四半期連結累計期間は、金融機関向けシステム基盤更改案件などが売上に貢献し、売上高(外部売上高)は50,824百万円(前年同期は46,667百万円)、経常利益は4,220百万円(前年同期は2,419百万円)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,222百万円増加、経常利益は992百万円増加しております。当影響を除いた場合においても、増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて12,346百万円増加し、112,051百万円(前年度末比12.4%増)となりました。内訳としては、流動資産が72,938百万円(同23.3%増)、固定資産が39,113百万円(同3.6%減)となりました。流動資産は、主に季節要因により現金及び預金が13,116百万円増加した他、収益認識会計基準等の適用により、棚卸資産が9,405百万円減少、受取手形、売掛金及び契約資産が9,762百万円増加しております。固定資産の減少は、減価償却、投資有価証券の売却等によるものであります。

負債は、主に買掛金が2,017百万円、未払費用が3,291百万円、未払法人税等が1,859百万円それぞれ増加したこと等により、前連結会計年度末と比べて5,130百万円増加し、40,998百万円(同14.3%増)となりました。

純資産は、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末と比べて7,216百万円増加し、71,053百万円(同11.3%増)となりました。なお、利益剰余金の増加額には、第1四半期連結会計期間の期首より前に収益認識会計基準等を遡及適用した場合の累積的影響額が含まれます。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績等を受け、2022年9月期連結業績予想及び通期セグメント別業績予想を下表のとおり修正いたします。

シンクタンク・コンサルティングサービスは、AI、先端ICT等の成長事業に関わる領域を含む官公庁案件の業績が想定を上回って推移したことにより、上方修正いたします。

ITサービスにおいても、基盤顧客であるカード向け案件が好調に進捗しており、前回公表予想を上回る見込みとなったことから、上方修正いたします。

## 2022年9月期通期連結業績予想数値の修正 (2021年10月1日～2022年9月30日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 117,000	百万円 7,700	百万円 8,700	百万円 6,400	円 銭 394.14
今回修正予想 (B)	117,000	9,200	10,400	7,500	461.88
増減額 (B-A)	—	1,500	1,700	1,100	
増減率 (%)	—	19.5	19.5	17.2	
(参考)前期連結実績 (2021年9月期)	103,030	6,853	7,568	5,009	308.60

## 2022年9月期通期セグメント別業績予想数値の修正 (2021年10月1日～2022年9月30日)

	シンクタンク・ コンサルティングサービス		ITサービス	
	売上高	経常利益	売上高	経常利益
前回発表予想 (A)	百万円 48,000	百万円 4,300	百万円 69,000	百万円 4,400
今回修正予想 (B)	48,000	5,200	69,000	5,200
増減額 (B-A)	—	900	—	800
増減率 (%)	—	20.9	—	18.2
(参考)前期セグメント別実績 (2021年9月期)	40,376	4,197	62,653	3,361

業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従って、予想に内在する不確定要素や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高及び利益は当該予想と異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,397	42,514
受取手形及び売掛金	17,735	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	27,498
棚卸資産	9,854	448
その他	2,156	2,479
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	59,142	72,938
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,154	6,890
機械装置及び運搬具（純額）	21	16
工具、器具及び備品（純額）	1,279	1,418
土地	720	720
リース資産（純額）	1,867	1,653
建設仮勘定	266	123
有形固定資産合計	11,310	10,822
無形固定資産		
ソフトウェア	4,000	3,584
リース資産	1,405	946
その他	246	940
無形固定資産合計	5,652	5,472
投資その他の資産		
投資有価証券	15,712	15,214
繰延税金資産	4,307	4,065
その他	3,579	3,538
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	23,599	22,818
固定資産合計	40,561	39,113
資産合計	99,704	112,051

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,166	6,183
1年内返済予定の長期借入金	400	400
未払金	1,596	2,074
未払費用	3,326	6,617
未払法人税等	588	2,447
賞与引当金	4,405	3,547
受注損失引当金	917	105
その他	5,217	5,485
流動負債合計	20,618	26,861
固定負債		
長期借入金	900	600
リース債務	2,454	1,804
株式報酬引当金	432	369
退職給付に係る負債	9,936	9,873
資産除去債務	1,521	1,487
その他	5	1
固定負債合計	15,249	14,136
負債合計	35,867	40,998
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,336	6,336
資本剰余金	4,785	4,785
利益剰余金	43,749	50,833
自己株式	△762	△622
株主資本合計	54,108	61,332
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,068	1,577
繰延ヘッジ損益	△70	△26
為替換算調整勘定	2	6
退職給付に係る調整累計額	169	188
その他の包括利益累計額合計	2,170	1,746
非支配株主持分	7,557	7,974
純資産合計	63,836	71,053
負債純資産合計	99,704	112,051

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
売上高	80,402	91,673
売上原価	61,415	69,422
売上総利益	18,986	22,250
販売費及び一般管理費	12,345	12,914
営業利益	6,641	9,335
営業外収益		
受取利息	3	8
受取配当金	152	166
持分法による投資利益	586	840
その他	58	135
営業外収益合計	800	1,151
営業外費用		
支払利息	30	26
匿名組合投資損失	9	—
外国源泉税	27	29
その他	10	0
営業外費用合計	77	56
経常利益	7,364	10,430
特別利益		
投資有価証券売却益	683	1,641
その他	1	—
特別利益合計	684	1,641
特別損失		
固定資産売却損	—	1
固定資産除却損	7	26
投資有価証券評価損	401	29
その他	4	7
特別損失合計	414	64
税金等調整前四半期純利益	7,635	12,008
法人税等	2,151	3,390
四半期純利益	5,483	8,617
非支配株主に帰属する四半期純利益	436	797
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,046	7,819

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	5,483	8,617
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△397	△601
繰延ヘッジ損益	6	43
為替換算調整勘定	1	4
退職給付に係る調整額	13	14
持分法適用会社に対する持分相当額	76	△1
その他の包括利益合計	△300	△541
四半期包括利益	5,183	8,076
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,838	7,395
非支配株主に係る四半期包括利益	345	680

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、当社グループが受託する調査研究・コンサルティング及びソフトウェアの開発等に関して、従来は、進捗部分について成果の確実性が認められる一部のソフトウェア開発については工事進行基準を適用し、その他のものについては工事完成基準を適用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、一定期間にわたり充足される履行義務については、履行義務の充足に係る進捗率を合理的に見積り、その進捗率に基づいて一定期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の見積りの方法は、履行義務の結果を合理的に測定できる場合は、見積総原価に対する実際原価の割合(インプット法)で算出し、履行義務の結果を合理的に測定できない場合には、発生した実際原価の範囲でのみ収益を認識しております。ただし、契約金額に重要性がなく、ごく短期な契約については完全に履行義務を充足した時点で収益認識を行っております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、全ての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,981百万円増加し、売上原価は2,028百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ952百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は1,235百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用の計算については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(取締役、執行役員及び研究理事に対する業績連動型株式報酬制度)

当社は、2016年12月19日開催の第47回定時株主総会において、当社の取締役（社外取締役、非業務執行取締役及び国外居住者を除く。）並びに委任契約を締結している執行役員及び研究理事（国外居住者を除く。以下、取締役と併せて「取締役等」という。）を対象として、業績連動型株式報酬制度（以下、「本制度」という。）を導入することを決議いたしました。本制度は、当社グループの中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めることを目的としたものであり、当社グループ業績との連動性が高く、かつ透明性・客観性の高い役員報酬制度であります。

本制度に関する会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じております。

(1) 取引の概要

本制度は、役員報酬BIP (Board Incentive Plan) 信託（以下、「BIP信託」という。）と称される仕組みを採用いたしました。当社は、取締役等の退任後（当該取締役等が死亡した場合は死亡時。）に、BIP信託により取得した当社株式及び当社株式の換価処分金相当の金銭を業績目標の達成度等に応じて交付又は給付いたします。

(2) 信託に残存する自社の株式

本信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末761百万円、212千株、当第3四半期連結会計期間末621百万円、株式数は173千株であります。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書「第5 経理の状況」の「注記事項（追加情報）（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り）」に記載した内容から重要な変更はありません。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染症拡大による影響は不確実性が高く、今後の経過によっては、当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年10月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	シンクタンク・ コンサルティング サービス	ITサービス			
売上高					
外部顧客への売上高	33,735	46,667	80,402	—	80,402
セグメント間の内部売上高 又は振替高	32	895	928	△928	—
計	33,767	47,563	81,330	△928	80,402
セグメント利益	4,944	2,419	7,364	△0	7,364

(注) 1. セグメント利益の調整額は、全てセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において、重要な事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	シンクタンク・ コンサルティング サービス	ITサービス			
売上高					
外部顧客への売上高	40,848	50,824	91,673	—	91,673
セグメント間の内部売上高 又は振替高	51	1,051	1,103	△1,103	—
計	40,900	51,876	92,776	△1,103	91,673
セグメント利益	6,212	4,220	10,432	△1	10,430

(注) 1. セグメント利益の調整額は、全てセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において、重要な事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間のシンクタンク・コンサルティングサービスの売上高は759百万円増加、セグメント利益が40百万円減少し、ITサービスの売上高は2,222百万円増加、セグメント利益が992百万円増加しております。

## 3. 補足情報

受注及び販売の状況

## (1) 受注状況

受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)			
	受注高 (百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
シンクタンク・コンサルティングサービス	41,774	△1.8	34,508	—
ITサービス	52,942	5.1	46,285	—
システム開発	32,975	26.9	20,843	—
アウトソーシングサービス	19,967	△18.1	25,442	—
合計	94,716	2.0	80,794	—

(注) 1. セグメント間の取引は、相殺消去しております。

2. 継続的に役務提供を行い実績に応じて料金を受領するサービスにつきましては、当第3四半期連結会計期間末後1年間の売上見込みを受注残高に計上しております。

3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の受注残高に加減しております。この結果、受注残高の当期首残高は11,230百万円減少しております。これにより、受注残高については当該会計基準等適用前の前年同四半期の実績値に対する増減率は記載しておりません。

## (2) 販売実績

販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	前年同四半期比 (%)
シンクタンク・コンサルティングサービス (百万円)	40,848	—
ITサービス (百万円)	50,824	—
システム開発 (百万円)	29,780	—
アウトソーシングサービス (百万円)	21,043	—
合計 (百万円)	91,673	—

(注) 1. セグメント間の取引は、相殺消去しております。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等に基づき収益を認識しております。これにより、当該会計基準等適用前の前年同四半期の実績値に対する増減率は記載しておりません。